

必要な安全方策を全機種全号機に実施し、それを共有できるよう設計することで、コストアップを極力抑えることができ、残留リスクの少ない機械をユーザに提供できる。

#### 6. 4 その他、問題点など

今後、放電加工機に関しても安全規格がISO化されその後JIS化されるという状況である。機械安全に対するスペックの確立が今後の課題である。

